

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン シガケンリツダイガク 公立大学法人 滋賀県立大学									
フリガナ大学の名称	シガケンリツダイガクダイガクイン 滋賀県立大学大学院 [The University of Shiga Prefecture]									
大学の位置	滋賀県彦根市八坂町2500番地									
大学の目的	滋賀県立大学大学院は、社会的、時代的要請に的確に対応し、専攻分野に関する専門的な学術の理論および応用を教授研究することにより、その深奥を極めて、学術文化の向上と進展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	滋賀県における看護の質の向上および保健医療を取り巻く課題を解決するために、生涯にわたり学際的・国際的な視野から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職を育成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	[基礎となる学部等] 人間看護学部人間看護学専攻 人間看護学専攻 博士後期課程 14条特例の実施
	人間看護学専攻	年	人	年次	人	博士(看護学)	保健衛生学関係(看護学)	年月第1年次	滋賀県彦根市八坂町2500番地	
	博士後期課程	3	2	—	6			令和7年4月第1年次		
	計	3	2	—	6					
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和7年4月名称変更予定 人間看護学専攻博士前期課程 → 人間看護学専攻博士後期課程									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			
	人間看護学専攻(博士後期課程)	6科目	5科目	0科目	11科目	15単位				
研究科等の名称	専任教員						助手	専任教員以外の教員(助手を除く)		
	教授	准教授	講師	助教	計					
新設分	人間看護学専攻(博士後期課程)	11人	4人	—人	—人	15人	—人	4人		
	計	(11)	(4)	(—)	(—)	(15)	(—)	(4)		
既設	環境科学研究科	10	10	8	—	28	—	—		
	環境動態学専攻(博士前期課程)	(10)	(10)	(8)	(—)	(28)	(—)	(—)		
	環境科学研究科	10	9	7	—	26	—	—		
	環境計画学専攻(博士前期課程)	(10)	(9)	(7)	(—)	(26)	(—)	(—)		
	環境科学研究科	10	10	5	—	25	—	—		
	環境動態学専攻(博士後期課程)	(10)	(10)	(5)	(—)	(25)	(—)	(—)		
	環境科学研究科	9	9	7	—	25	—	—		
	環境計画学専攻(博士後期課程)	(9)	(9)	(7)	(—)	(25)	(—)	(—)		
	工学研究科	6	6	3	—	15	—	—		
	材料科学専攻(博士前期課程)	(6)	(6)	(3)	(—)	(15)	(—)	(—)		
	工学研究科	7	6	3	—	16	—	—		
	機械システム工学専攻(博士前期課程)	(7)	(6)	(3)	(—)	(16)	(—)	(—)		
	工学研究科	6	6	4	—	16	—	—		
	電子システム工学専攻(博士前期課程)	(6)	(6)	(4)	(—)	(16)	(—)	(—)		
工学研究科	18	18	6	—	42	—	—			
先端工学専攻(博士後期課程)	(18)	(18)	(6)	(—)	(42)	(—)	(—)			
人間文化科学研究科	12	9	1	—	22	—	—			
地域文化学専攻(博士前期課程)	(12)	(9)	(1)	(—)	(22)	(—)	(—)			
人間文化科学研究科	12	12	7	—	31	—	—			
生活文化学専攻(博士前期課程)	(12)	(12)	(7)	(—)	(31)	(—)	(—)			
人間文化科学研究科	11	6	1	—	18	—	—			
地域文化学専攻(博士後期課程)	(11)	(6)	(1)	(—)	(18)	(—)	(—)			
人間文化科学研究科	11	12	4	—	27	—	—			
生活文化学専攻(博士後期課程)	(11)	(12)	(4)	(—)	(27)	(—)	(—)			

分	人間看護学研究科 人間看護学専攻（修士課程）		11 (11)	7 (7)	7 (7)	— (—)	25 (25)	— (—)	— (—)	
	計		74 (74)	65 (65)	40 (40)	— (—)	179 (179)	— (—)	— (—)	
合計			77 (77)	65 (65)	40 (40)	— (—)	182 (182)	— (—)	— (—)	
職種			専属		その他			計		
事務職員			64 (64)		88 (88)			152 (152)		
技術職員			3 (3)		15 (15)			18 (18)		
図書館職員			9 (9)		— (—)			9 (9)		
その他の職員			— (—)		— (—)			— (—)		
指導補助者			— (—)		— (—)			— (—)		
計			76 (76)		103 (103)			179 (179)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用			計		
	校舎敷地	274,765.81㎡	—㎡		—㎡			274,765.81㎡		
	その他	50,134.65㎡	—㎡		—㎡			50,134.65㎡		
	合計	324,900.46㎡	—㎡		—㎡			324,900.46㎡		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用			計		
		67,507.64㎡ (67,507.64㎡)	—㎡ (—㎡)		—㎡ (—㎡)			67,507.64㎡ (67,507.64㎡)		
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室		講義室	実験・実習室		演習室			新設研究科等の専任教員研究室		
		4室	5室		10室			15室		
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具	標本
		冊	冊	種	種	点	点	点		
	人間看護学研究科 人間看護学専攻 (博士後期課程)	415,618 [67,821] (415,618 [67,821])	818 [0] (818 [0])	2,090 [748] (2,090 [748])	1,729 [63] (1,729 [63])	823 (823)	18 (18)	18 (18)		
	計	415,618 [67,821] (415,618 [67,821])	818 [0] (818 [0])	2,090 [748] (2,090 [748])	1,729 [63] (1,729 [63])	823 (823)	18 (18)	18 (18)		
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計		
		教員1人当り研究費等	—	480千円	480千円	480千円	—		—	
		共同研究費等	—	—千円	—千円	—千円	—		—	
		図書購入費	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	—		—	
	設備購入費	1,000千円	—千円	—千円	—千円	—	—			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次				
	817.8千円(県内)	535.8千円	535.8千円	—	—					
	958.8千円(県外)	535.8千円	535.8千円	—	—					
学生納付金以外の維持方法の概要		県運営費交付金、使用料等収入、寄付金収入、雑収入等								

大学等の名称	滋賀県立大学				学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員				
既設大学等の状況	学部	年	人	年次人	人			
	環境科学部							
	環境生態学科	4	30	—	120	学士	1.06	
	環境・政策計画学科	4	40	—	160	(環境科学)	1.05	平成7年度
	環境建築デザイン学科	4	50	—	200		1.11	平成20年度
	生物資源管理学科	4	60	—	240		1.08	平成20年度
							1.03	平成7年度
	工学部							
	材料化学科	4	50	—	200	学士	1.05	
	機械システム工学科	4	50	—	200	(工学)	1.10	平成7年度
	電子システム工学科	4	50	—	200		1.03	平成7年度
							1.04	平成20年度
	人間文化学部							
	地域文化学科	4	60	—	240	学士	1.08	
	生活デザイン学科	4	30	—	120	(人間文化学)	1.07	平成7年度
	生活栄養学科	4	30	—	120		1.06	平成20年度
	人間関係学科	4	30	—	120		1.05	平成20年度
	国際コミュニケーション学科	4	50	—	200		1.15	平成20年度
							1.09	平成24年度
	人間看護学部							
	人間看護学科	4	70	20	300	学士	0.99	
						(看護学)	0.99	平成15年度
	大学院							
	環境科学研究科							
	博士前期課程					修士		
	環境動態学専攻	2	18	—	36	(環境科学)	0.86	平成11年度
	環境計画学専攻	2	18	—	36		1.44	平成11年度
	博士後期課程					博士		
	環境動態学専攻	3	3	—	9	(環境科学)	1.33	平成13年度
	環境計画学専攻	3	2	—	6	(学術)	1.00	平成13年度
	工学研究科							
	博士前期課程							
材料科学専攻	2	18	—	36	修士	1.16	平成11年度	
機械システム工学専攻	2	18	—	36	(工学)	1.08	平成11年度	
電子システム工学専攻	2	18	—	36		1.16	平成24年度	
博士後期課程					博士			
先端工学専攻	3	3	—	9	(工学)	0.44	平成21年度	
人間文化学研究科								
博士前期課程					修士			
地域文化学専攻	2	9	—	18	(人間文化学)	0.5	平成11年度	
生活文化学専攻	2	7	—	14		0.85	平成11年度	
博士後期課程					博士			
地域文化学専攻	3	3	—	9	(人間文化学)	0.44	平成13年度	
生活文化学専攻	3	2	—	6	(学術)	1.33	平成13年度	
人間看護学研究科								
修士課程					修士			
人間看護学専攻	2	8	—	16	(看護学)	1.37	平成19年度	
附属施設の概要								滋賀県彦根市八坂町2500番地

公立大学法人滋賀県立大学大学院人間看護学専攻
博士後期課程設置認可等に関わる組織の移行表

課程の変更

令和6年度	令和7年度				
入学定員	編入学定員	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
公立大学法人 滋賀県立大学	公立大学法人 滋賀県立大学	30	30	30	
環境科学部	環境科学部	40	40	40	
環境生態学科	環境生態学科	50	50	50	
環境政策・計画学科	環境政策・計画学科	60	60	60	
環境建築デザイン学科	環境建築デザイン学科	50	50	50	
生物資源管理学科	生物資源管理学科	50	50	50	
工学部	工学部	60	60	60	
材料化学科	材料化学科	60	60	60	
機械システム工学科	機械システム工学科	30	30	30	
電子システム工学科	電子システム工学科	30	30	30	
人間文化学科	人間文化学科	30	30	30	
地域文化学科	地域文化学科	50	50	50	
生活デザイン学科	生活デザイン学科	70	70	70	
生活栄養学科	生活栄養学科	10	10	10	
人間関係学科	人間関係学科	200	200	200	
国際コミュニケーション学科	国際コミュニケーション学科	200	200	200	
人間看護学部	人間看護学部	200	200	200	
人間看護学科	人間看護学科	240	240	240	
計	計	600	600	600	
			3年次		
			10		
			2,420		

公立大学法人					
滋賀県立大学大学院					
環境科学研究所					
環境動態学専攻 (M)	18	—	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	3	—	9
環境動態学専攻 (M)	18	—	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	2	—	2	—	6
工学研究所					
材料科学専攻 (M)	18	—	18	—	36
機械システム工学専攻 (M)	18	—	18	—	36
電子システム工学専攻 (M)	18	—	18	—	36
先端工学専攻 (D)	3	—	3	—	9
人間文化学研究所					
地域文化学専攻 (M)	9	—	9	—	18
地域文化学専攻 (D)	3	—	3	—	9
生活文化学専攻 (M)	7	—	7	—	14
生活文化学専攻 (D)	2	—	2	—	6
人間看護学研究所					
人間看護学専攻 (M)	8	—	8	—	16
計	127	—	129	—	267
公立大学法人					
滋賀県立大学大学院					
環境科学研究所					
環境動態学専攻 (M)	18	—	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	3	—	9
環境動態学専攻 (M)	18	—	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	2	—	2	—	6
工学研究所					
材料科学専攻 (M)	18	—	18	—	36
機械システム工学専攻 (M)	18	—	18	—	36
電子システム工学専攻 (M)	18	—	18	—	36
先端工学専攻 (D)	3	—	3	—	9
人間文化学研究所					
地域文化学専攻 (M)	9	—	9	—	18
地域文化学専攻 (D)	3	—	3	—	9
生活文化学専攻 (M)	7	—	7	—	14
生活文化学専攻 (D)	2	—	2	—	6
人間看護学研究所					
人間看護学専攻 (M)	8	—	8	—	16
計	127	—	129	—	267
課程変更 (認可申請)					
計					6
計					273

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院人間看護学研究科人間看護学専攻博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
共通科目	看護学研究特論Ⅰ	1前	/	2			○			6					オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)	
	看護学研究特論Ⅱ	1後		2			○			5						
	看護臨床疫学・統計学特論	1・2前		2			○			1						
	看護教育学特論	1・2後		2			○			1	1					
	小計(4科目)	—	—	6	2		—			6	1				3	
部門別専門科目	基盤看護学特論	1前	/	2			○			5	1				オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)	
	基盤看護学演習	1後		1				○		5	1					
	小計(2科目)	—		—	3			—			5	1				
	看護実践科学特論	1前		/	2			○			6	3				
看護実践科学演習	1後	1					○		6	3						
小計(2科目)	—	—	3				—			6	3					
特別研究Ⅰ	1通	/	2					○		11	4					
特別研究Ⅱ	2通		2				○		11	4						
特別研究Ⅲ	3通		2				○		11	4						
小計(3科目)	—		—	6			—			11	4					
合計(11科目)				—	—	18	2		—							
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学)								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
博士後期課程に3年以上在学し、共通科目6単位以上、部門別専門科目のうちいずれかの部門専門科目3単位、研究科目6単位の合計15単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。							1学年の学期区分				2期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（人間看護学研究科人間看護学専攻修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任（助手を除く） 教員以外の教員	
共通科目	看護理論	1・2前	/	2			○			1							オムニバス 集中 集中 1 1 集中 1
	看護研究方法論	1・2前		2			○			4	1						
	家族看護学特論	1・2後			2			○		1							
	看護政策論	1・2後			2			○			1						
	看護教育学	1・2後			2			○		1	1						
	コンサルテーション論	1・2前			2			○		1	1						
	看護倫理	1・2前			2			○		1							
	看護管理学	1・2前			2			○		1	1						
	フィジカルアセスメント	1・2後			2			○		1					1		
	病態生理学	1・2後			2			○		2							
	薬物治療学	1・2前			2			○							1		
	看護英語論文入門	1・2前			2			○		1							
	学校保健学	1・2前			2			○		2	1				1		
小計（13科目）	—	—	4	22	0	—	—	—	7	4	0	0	0	3	—		
基盤看護学部門	看護技術学特論	1・2前	/		2		○			1							集中 集中 集中 集中
	看護技術学演習	1・2後			2			○		1							
	人的資源管理論特論	1・2後			2			○		1							
	人的資源管理論演習	1・2後			2			○		1							
	形態機能・生体機構学特論	1・2後			2			○		1							
	形態機能・生体機構学演習	1・2後			2			○		1							
	精神看護援助方法論	1・2後			2			○		1	1						
	精神看護関連技法演習	1・2後			2			○		1	1						
	在宅看護学特論	1・2前			2			○		1							
	在宅看護学演習	1・2後			2			○		1	1	1					
	公衆衛生看護学特論	1・2前			2			○			2						
	公衆衛生看護学演習	1・2後			2			○			2						
	基盤看護学特別研究	1～2通			8			○		5	3	2					
小計（13科目）	—	—	8	24	0	—	—	—	5	5	2	0	0	0	—		
生涯健康看護学部門	母性看護学特論	1・2後	/		2		○			2	2						オムニバス オムニバス オムニバス 集中
	母性看護学演習	1・2後			2			○		2	2						
	小児家族看護学特論	1・2前			2			○		1							
	小児家族看護学演習	1・2後			2			○		1	1						
	成人継続支援看護学特論	1・2後			2			○		1	1						
	成人継続支援看護学演習	1・2後			2			○		1	1	5					
	老年看護学特論	1・2前			2			○		1							
	老年看護学演習	1・2後			2			○		1		2					
	生涯健康看護学特別研究	1～2通年			8			○		9	8	6					
小計（9科目）	—	—	8	16	0	—	—	—	10	8	10	0	0	0	—		
高度実践看護学部門（慢性疾患看護分野）	慢性看護学特論A	1前	/		2		○			1							オムニバス 集中 集中 集中
	慢性看護学特論B	1後			2			○		1					1		
	慢性看護支援論A	1前			2			○		1							
	慢性看護支援論B	1後			2			○		1					1		
	慢性看護支援論C	1後			2			○		1					3		
	慢性看護支援論演習Ⅰ	1後			2			○				2					
	慢性看護支援論演習Ⅱ	2前			2			○				2					
	慢性看護学実習Ⅰ	1後			2							2					
	慢性看護学実習Ⅱ	2前			4							2					
	慢性看護学実習Ⅲ	2通			4							2					
	高度実践看護学課題研究	1～2通年			2					○							
小計（11科目）	—	—	26	0	0	—	—	—	2	0	2	0	0	5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任教員以外を除く		
専門科目 ・門看護師育成コース 在宅看護分野	在宅看護学特論A	1前	在宅看護分野のみ	2			○			1						1	集中 集中 集中	
	在宅看護学特論B	1前		2			○					1						
	在宅看護学支援論A	1後		2			○				1							
	在宅看護学支援論B	1前		2			○				2							1
	在宅看護学支援論C	1後		2			○				1							1
	在宅看護学支援論演習Ⅰ	1後		2				○			1	1						
	在宅看護学支援論演習Ⅱ	2前		2				○			1	1						
	在宅看護学実習Ⅰ	1後		3						○	1	1						
	在宅看護学実習Ⅱ	2前		3						○	1	1						
	在宅看護学実習Ⅲ	2通		4						○	1	1						
	高度実践看護学課題研究	1～2通年		2					○		2							
小計 (11科目)	—	—	26	0	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	2	—		
助産学部門（助産師育成コース）助産学領域	助産学概論	1前	在宅看護分野のみ	1			○			1							共同 共同 共同 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 偶数年 選択必修 共同 選択必修 共同 集中	
	助産学特論Ⅰ	1通		2			○			1	1							
	助産学特論Ⅱ	1前		2			○			1								
	助産学特論Ⅲ	1通		1			○				1							
	助産診断技術学特論Ⅰ	1前		2			○					1						
	助産診断技術学特論Ⅱ	1前		2			○						1					
	助産診断技術学特論Ⅲ	1前		2			○						1					
	実践助産学演習Ⅰ	1前		3				○				1		2				
	実践助産学演習Ⅱ	1前		1				○			1							
	助産マネジメント特論	2前		2				○			1							
	地域母子保健特論	1後		2				○					2					
	助産学実習Ⅰ	1通		2						○		2		2				
	助産学実習Ⅱ	1通		8						○		2		2				
	助産学実習Ⅲ	2前		1						○		2		1				
	ウィメンズヘルス助産学特論	1前			1			○				1						
	ウィメンズヘルス助産学演習	1後			1			○				2						
	周産期包括支援特論	1通			2			○				1						
周産期包括支援演習	1後		1			○				1								
助産倫理特論	1後		1			○				1								
国際助産学特論	1・2前		2			○			1									
健康教育演習	2前		1			○					2							
助産学実習Ⅳ	2前		2					○				1						
助産学実習Ⅴ	2前		1					○		1								
助産学特別研究	1～2通年		8					○		2	2	1						
小計 (24科目)	—	—	39	12	0	—	—	—	2	2	3	0	0	0	0	—		
講義（他専断/攻全科薦研）	環境研究倫理特論	1・2後	在宅看護分野のみ		2		○									4	オムニバス	
	研究方法論	1前			1		○									3	前半	
	テクニカルコミュニケーション	1前			1		○									3	後半	
	総合工学セミナー	1後			1		○									3	前半	
小計 (4科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	13	—		
教/（自由カリ）	インターンシップC	1前	在宅看護分野のみ			1										1	集中	
	インターンシップD	1前				2										1	集中	
	インターンシップF	1前				3										1	集中	
小計 (3科目)	—	—	0	0	6	—	—	—	0	0	0	0	0	0	1	—		
合計 (89科目)				—	—	111	79	6	—	—	11	9	17	0	0	22	—	
学位又は称号		修士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学）											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
いずれの部門も博士前期課程に2年以上在学すること。 *基盤看護学・生涯健康看護学部門 30単位以上（必修12単位および選択科目18単位以上）修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。 *高度実践看護学部門 40単位以上（必修科目30単位以上、選択科目10単位以上）修得し、かつ必要な課題研究論文の審査および最終試験に合格しなければならない。 *助産学部門 61単位以上（専攻共通必修科目4単位および専攻共通選択科目から6単位以上と助産部門の必修科目および選択/必修科目の51単位）を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。							1 学年の学期区分				2 期				
							1 学期の授業期間				1 5 週				
							1 時限の授業の標準時間				9 0 分				

教育課程等の概要																	
(人間看護学部人間看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
全学共通科目	語学	英語ⅠA（活性化コース）	1前	/	1				○						1	第二外国語Ⅱもしくは実用英語演習Ⅰを選択	
		英語ⅠB（活性化コース）	1後		1				○								1
		英語ⅡA（応用コース）	1前		1				○								1
		英語ⅡB（応用コース）	1後		1				○								1
		英語ⅢA（充実コース）	2前		1				○								2
		英語ⅢB（充実コース）	2後		1				○								2
		英語ⅣA（展開コース）	2前		1				○								2
		英語ⅣB（展開コース）	2後		1				○								2
		第二外国語ⅠA（初級コース）	1前		1				○								9
		第二外国語ⅠB（初級コース）	1後		1				○								9
		第二外国語ⅡA（中級コース）	2前			1			○								6
		第二外国語ⅡB（中級コース）	2後			1			○								6
		実用英語演習ⅠA	2前			1			○								4
		実用英語演習ⅠB	2後			1			○								4
	小計（14科目）	—	—	10	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	21		
保健体育	健康・体力科学Ⅰ	1後	/	1				○							6		
	健康・体力科学Ⅱ	2前		1				○							6		
	小計（2科目）	—		—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	6	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）	1前	/	2				○							1		
	情報科学概論	1後		2				○							1		
	小計（2科目）	—		—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1	
人間学	人間探求学	1前	/	2				○			8	9	16			オムニバス	
	自然のしくみB	1,2,3,4後		2				○								1	
	農業と環境A	1,2,3,4後		2				○								1	
	食と健康	1,2,3,4前		2				○								12	
	人間と病気	1,2,3,4前		2				○			1						
	生命・人間・倫理	1,2,3,4後		2				○			2						
	生活と健康	1,2,3,4前		2				○				2	10				
	キャリア形成への道B	2,3,4前		2				○								1	
	経済学	1,2,3,4後		2				○								1	
	憲法	1,2,3,4後		2				○								1	
	Japan Studies IV	1,2,3,4後		2				○								1	
	アジアフィールド実習Ⅰ	1,2,3,4後		2				○								3	
	アジアフィールド実習Ⅱ	2,3,4後		2				○								3	
	自然のしくみA	1,2,3,4後		2				○								1	
	名著から学ぶ環境問題	1,2,3,4後		2				○								9	
	都市・建築を考える	1,2,3,4前		2				○								1	
	生活の中にみる力学	1,2,3,4後		2				○								1	
	コンピュータとインターネット	1,2,3,4後		2				○								1	
	地域と文化	1,2,3,4前		2				○								1	
	歴史と文化	1,2,3,4後		2				○								1	
	人間関係の科学A	1,2,3,4前		2				○								5	
	人間関係の科学B	1,2,3,4後		2				○								5	
	国際文化学概論	1,2,3,4前		2				○								1	
	差別と人権（同和問題）	1,2,3,4前		2				○			2	2	1			1	
	キャリア形成への道A	1,2,3,4前		2				○								1	
	Japan Studies VII	1,2,3,4前		2				○								1	
	World Societies I	1,2,3,4前		2				○								1	
	World Societies II	1,2,3,4後		2				○								1	
	異文化理解A	1,2,3,4前		2				○								1	
	都市・建築をつくる	1,2,3,4前		2				○								1	
農業と環境B	1,2,3,4後	2				○								1			
暮らしの中の材料	1,2,3,4前	2				○								2			

	自然科学入門	1, 2, 3, 4前		2		○									1	
	機械の再発見	1, 2, 3, 4後		2		○									1	
	機械の役割と仕組み	1, 2, 3, 4前		2		○									1	
	技術の歴史	1, 2, 3, 4後		2		○									1	
	電子社会と人間	1, 2, 3, 4後		2		○									1	
	電子システムの最先端	1, 2, 3, 4前		2		○									17	オムニバス
	比較住居論	1, 2, 3, 4前		2		○									1	
	ジェンダー平等をつくる	1, 2, 3, 4前		2		○									4	オムニバス
	小計 (40科目)		—	—	4	76	0	—		10	9	16	0	0	82	
地域基礎科目	地域共生論	1前		2		○				1		2				オムニバス
	地域コミュニケーション論	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
	地域づくり人材論	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
	びわこ環境行政論	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
	地域社会福祉論	1, 2, 3, 4後	2			○									1	
	多文化共生論	1, 2, 3, 4前			2	○									1	
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	1, 2, 3, 4前			2	○									1	
	近江の美	1, 2, 3, 4前			2	○									7	オムニバス
	地域診断法	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
	ソーシャル・ビジネス概論	1, 2, 3, 4後			2	○									2	
	世界遺産のまちづくり・人づくり	1, 2, 3, 4後			2	○									1	
小計 (12科目)		—	—	4	0	20	—		1	0	2	0	0	14		
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	1前		2		○				1						
	解剖生理学Ⅱ	1後		2		○				2						
	生化学	1前		1		○									1	
	病理学総論	1後		1		○				1						
	微生物学/免疫学	1前		2		○									1	
	薬理学	2前		2		○									1	
	疾病論Ⅰ	2前		2		○				2					5	
	疾病論Ⅱ	2後		2		○				3					4	
	疾病論Ⅲ	2後		2		○				2					3	
	疫学	2後		2		○									1	
	栄養学	2後		1		○									1	
	精神保健論	1後		2		○				1	1	1				
	公衆衛生学	2前		2		○									1	
小計 (13科目)		—	—	23	0	0	—		5	1	1	0	0	16		
専門科目	必修科目															
	人間看護学概論	1前		2		○				1						
	基礎看護技術Ⅰ (コミュニケーション・生活環境)	1前		2		○				1		2				
	基礎看護技術Ⅱ (生活行動援助)	1後		2		○				2	1	2				
	基礎看護技術Ⅲ (フィジカルアセスメント・臨床看護)	2前		2		○				2	1	2				
	基礎看護技術Ⅳ (看護過程)	2前		1		○					1	2				
	看護理論	2後		2		○					1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前		1				○		2	1	2				
	基礎看護学実習Ⅱ	2前		2				○		2	1	2				
	成人看護学概論	1後		1			○			1						
	成人看護学	2前		2			○			1	1				1	
	健康危機回復支援演習Ⅰ (慢性期)	2後		1				○				5			1	
	健康危機回復支援演習Ⅱ (急性期)	3前		1				○			1	2				
	緩和ケア演習	3前		1				○		1		2				
	健康危機回復支援実習	3通		4					○		1	7			1	
	緩和ケア実習	3通		2					○	1		7				
	老年看護学概論	2前		1			○			1						
	老年看護学	2後		2			○			1						
	在宅療養移行支援演習	3前		1				○				3				
	在宅療養移行支援実習	3通		2					○	1		7				
	小児看護学概論	1前		1			○			1						
	小児看護学	2後		2			○			1	1	1				
	小児看護学演習	3前		1				○		1	1	1				
	小児看護学実習	3通		2					○	1	1	1				
	母性看護学概論	1後		1			○			1						
	母性看護学	2前		2			○			1		2				
	母性看護学演習	3前		1				○				2				
	母性看護学実習	3通		2					○		2	2				
	精神看護学概論	1後		1			○			1						
	精神看護学	2後		2			○			1	1					
	精神看護学演習	3前		1				○		1	1	1				

	精神看護学実習	3通		2				○	1	1	1				
	在宅看護学概論	2前		2			○		1						
	在宅看護学	2後		2			○			1					
	在宅看護学演習Ⅰ	3前		1				○		1	1	2			
	在宅看護学演習Ⅱ	3前		1				○		1	1	2			
	在宅看護学実習	3通		2				○	1	1	2				
	地域（健康）生活実習Ⅰ	1前		1				○	2	3	7				
	地域（療養）生活実習Ⅱ	4前		1				○	2	3	7				
	看護管理学	4前		2			○			1					
	家族看護学	3前		1			○		1	1	1				
	国際看護学	3前		1			○		1						1
	公衆衛生看護学概論	2前		2			○			1					
	看護研究の基礎	3通		1			○		3	2					
	人間看護学統合実習Ⅰ	4前		1				○	10	9	16				
	人間看護学統合実習Ⅱ	4前		1				○	10	9	16				
	卒業研究	4通		4				○	10	9	14				
	小計（46科目）	—	—	73	0	0	—	—	10	9	16	0	0	0	4
看護 探求	看護キャリアデザイン論	3, 4前		1			○				1				1
	看護教育と実践	4前		1			○		1	1	2				
看護 実践	健康教育論	3前		2			○			1	1				
	クリティカルケア実践演習	4前		1				○		1	1	1			
	チャイルドライフケア論	4前		1			○		1	1	1				
地域 国際	ホリスティックケア論	3, 4前		1			○		1	1	2				
	看護英語実践	1, 2, 3, 4後		1				○	2		2				
	災害看護学	3, 4前		1			○		2						4
	ボランティア実践演習	4前		1				○	1	1	2				
	小計（9科目）	—	—	0	10	0	—	—	6	4	8	0	0	0	5
合計（138科目）		—	—	120	90	20	—	—	10	9	16	0	0	0	149
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
4年以上在学し、全学共通科目30単位以上、専門基礎科目23単位以上、専門科目76単位以上、合計129単位以上を修得すること。そのうち語学については第二外国語Ⅱもしくは実用英語演習Ⅰから2単位以上、人間学の選択科目から4単位以上、専門科目の選択科目から3単位以上を修得すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業の標準時間		90分						

3単位以上を選択

授 業 科 目 の 概 要				
(人間看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究特論Ⅰ		<p>(概要) 看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れ、学際的・国際的な研究の動向などについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。</p> <p>(オムニバス/全15回) ⑥ 竹村淳子/3回 科目の導入を行い、文献研究のシステムティックレビューやスコopingレビューなどの文献研究の種類と方法について、学際的・国際的な研究の動向をふまえて具体的に講義する。 ③ 藤井誠/2回 ④ ホート研究や症例-対照研究などの疫学調査について、種類や方法を具体的に講義する。 ② 牧野耕次/3回 ・尺度開発における概念分析や因子分析など手順や信頼性・妥当性の検討方法について、具体的に講義する。 ・海外との共同研究の具体例や学術交流をもとに、健康課題について学際的・国際的な視点から検討する。 ⑦ 古株ひろみ/3回 混合研究法 (mixed methods) における「分析結果の統合方法」や「量・質の異なるデータの意味づけの方法」について、具体的に講義する。 ⑤ 赤澤千春/2回 プログラム開発におけるプログラムの作成や妥当性の確認、評価方法などについて、具体的に講義する。 ① 本田可奈子/2回 「研究の健全性」や「研究の不正行為」、倫理審査など研究倫理について具体的に講義する。</p>	オムニバス
	看護学研究特論Ⅱ		<p>(概要) 地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めるために必要な視点を学ぶ。プログラム開発の基盤となる概念の明確化と、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそった研究方法をデザインできる視点を学習する。具体的には、看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析の演習により、学際的・国際的な文献を用いて検討し、自己が取り組む現象の概念の理解を深める。さらに、自己の研究課題と関連する論文のサブストラクションを行って、研究の論理的一貫性を評価する力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) 前半は概念分析、後半はサブストラクションのプレゼンテーションを行って、理論的基盤にそった研究方法をデザインできる視点を学習する。</p> <p>① 本田可奈子/6回 ・看護科学の発展過程と看護理論の構造と機能について教授する。 ・概念分析の手法について教授する。 ・サブストラクションの手法について教授する。</p> <p>⑤ 赤澤千春、① 本田可奈子、⑥ 竹村淳子、⑦ 古株ひろみ、② 牧野耕次/9回 (共同) ・自己が取り組む看護現象の概念についてプレゼンテーション (概念分析) と理論構築について学際的・国際的な視野をふまえて討議する。 ・自己の研究テーマと関連する文献のクリティーク (サブストラクション) を行い、理論的基盤と使用されている方法論の関連性、一貫性について討議する。 ・まとめとして、地域の健康課題解決に活用する理論構築について総合討議する。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	看護臨床疫学・統計学特論		<p>(概要) 社会の変化や地域のニーズを的確に捉えた看護研究を展開するためには、臨床疫学・統計学の基礎と応用についての知識を深めることが必要である。本科目では、看護研究における量的研究を実施し、臨床看護・地域看護など様々な看護ケア関連のデータを分析するための、疫学研究のデザインを構築する能力を高めることを目的とし、看護研究者として科学的根拠に基づく看護実践に向け、臨床疫学・統計学の知識・技術を看護研究に適用するための方法論を学ぶ。</p> <p>③ 藤井 誠/全15回</p>	

看護教育工学特論		<p>(概要) 滋賀県における地域の健康課題に対応するため、情報通信技術 (ICT) を組み込んだ創造的・効率的な看護実践・教育研究方法を開発・評価するための手法について、看護学・教育学・工学の分野からの共同研究例をもとに学ぶ。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) / 全15回) (1 伊丹君和、12 米田照美 / 5回) (共同) 滋賀県における地域の健康課題に対応するため、情報通信技術 (ICT) を組み込んだ創造的・効率的な看護実践・教育研究方法を開発・評価するための手法について概説する。看護学・教育学・工学の分野からの具体的な研究例をもとに、多職種と連携して共同研究・開発することの意義と今後の展望について検討する。</p> <p><看護学・教育学の分野からの実践例> (1 伊丹君和 / 2回) 滋賀県における看護職の腰痛状況を情報共有し、課題解決に向けての「腰痛要因となる危険前傾姿勢を警告可能なデバイスの開発」と看護教育への導入 (12 米田照美 / 2回) 視線計測機器を用いた熟練看護師の観察眼の解明と医療安全教育への導入</p> <p><工学の分野から看護学との共同研究例> (16 酒井 道 / 2回) 健康関連統計データの解析を組み入れた工学と看護学との共同研究 (18 宮城茂幸 / 2回) 嚙下音と頸部深度画像を併用した嚙下評価手法の開発 (19 西岡靖貴 / 2回) 看護者の自己学習に向けたIoT機器の開発</p>	オムニバス・共同 (一部)
----------	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

<p style="text-align: center;">基盤看護学研究部門</p>	<p>基盤看護学特論</p>	<p>(概要) 住み慣れた地域でのその人らしい生活を支えるため、変化する地域社会を見据え、保健医療を取り巻く課題を捉える力を養うとともに、看護を理論的、実践的に追究し、包括的な視点から看護実践の特質を解明する方法を学修する。さらに、看護学教育および看護マネジメントに関する諸理論をもとに、臨床での活用と課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス／全15回) (1 伊丹君和／3回) 基盤看護学研究が目ざすものについて教授する。 1. 看護学教育に関する基礎理論、看護学教育の実際における理論の活用と課題を教授する。 2. 看護技術のエビデンスの検証と開発に関する課題を教授する。</p> <p>(① 本田可奈子／3回) 1. 看護マネジメントに関する基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。 2. 看護職のキャリア発達・開発または専門職教育に関する基礎理論、臨床での活用と課題を教授する。</p> <p>(12 米田照美／2回) 1. 医療安全に関する基礎理論、看護教育または臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(③ 藤井 誠／2回) 1. 看護学研究のための臨床疫学について教授する。 2. 保健医療を取り巻く課題の捉え方を教授する。</p> <p>(② 牧野耕次／2回) 1. 包括的な視点から看護師－患者関係における基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(2 新井香奈子／2回) 1. 地域包括ケアを支える地域・在宅看護ケアに関する基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(1 伊丹君和、① 本田可奈子、③ 藤井 誠、② 牧野耕次、2 新井香奈子、12 米田照美／1回) (共同) 学生による「保健医療を取り巻く課題を解決することの意義」についてのプレゼンテーションおよびディスカッションをもとに、看護の展望を教授する。</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p>
	<p>基盤看護学演習</p>	<p>(概要) 基盤看護学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシステムティックレビューに基づく知見を整理し、社会における看護学の発展に寄与するための方策を創造・開発することの意義を考究する</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) / 全15回) (1 伊丹君和、① 本田可奈子、③ 藤井 誠 / 担当5回) (共同) システムティックレビューの意義と方法論を教授する</p> <p>(1 伊丹君和、① 本田可奈子、③ 藤井 誠、② 牧野耕次、2 新井香奈子、12 米田照美 / 10回) ・セミナーA・Bのいずれかを選択し、システムティックレビューを行う。 ・最後に、学生によるシステムティックレビューのプレゼンテーション後、社会における看護学の発展に寄与するための方策を創造・開発することの意義についてのディスカッションをもとに看護の展望を教授する。</p> <p><セミナーA:1 伊丹君和、① 本田可奈子、12 米田照美> (共同) 看護職の成長発達におけるマネジメントに関するシステムティックレビューを教授する。</p> <p><セミナーB:③ 藤井 誠、② 牧野耕次、2 新井香奈子> (共同) その人らしい生活を包括的な視点から支える看護ケアの創出に関するシステムティックレビューを教授する。</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p>

研究部

門別 専門 科目	看護実践科学特論	<p>(概要) 豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、学生の関心のある対象の健康課題について、療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案を行う。</p> <p>(オムニバス/全15回) (④ 岡本紀子/1回) 1. 老年看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題、老年期の個人・家族(重要他者)および集団を対象とした看護の現状と課題を教授する。</p> <p>(⑤ 赤澤千春/2回) 1. 成人看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。 2. 成人期の個人・家族(重要他者)および集団を対象とした看護の現状と課題を教授する。</p> <p>(⑩ 荒川千登世/1回) 1. 急性期看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(⑧ 糸島陽子/2回) 1. 慢性期看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。 2. 終末期看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(⑥ 竹村淳子/2回) 1. 小児看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。 2. 家族看護学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題を教授する。</p> <p>(⑦ 古株ひろみ/1回) 1. 小児期の個人・家族(重要他者)および集団を対象とした看護の現状と課題を教授する。</p> <p>(⑫ 川端智子/1回) 1. 未成年への健康教育の現状と課題を教授する。</p> <p>(⑨ 千葉陽子/1回) 1. 助産学の基礎理論、臨床での理論の活用と課題、助産ケアの現状と課題を教授する。</p> <p>(⑪ 板谷裕美/1回) 1. 助産師による育児支援の現状と課題を教授する。</p> <p>(17 辰巳佐和子/2回) 1. ライフステージと疾患別の食と健康の特徴と課題を教授する。 2. ライフステージと疾患別の栄養摂取と代謝の特徴と課題を教授する。</p> <p>(④ 岡本紀子、⑤ 赤澤千春、⑥ 竹村淳子、⑦ 古株ひろみ、⑧ 糸島陽子、⑨ 千葉陽子、⑩ 荒川千登世、⑪ 板谷裕美、⑫ 川端智子、17 辰巳佐和子/1回) (共同) 学生による特定の健康課題解決のための看護の具体的提案について、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	看護実践科学演習	<p>(概要) 看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシステムティックレビューに基づく知見を整理し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。さらに、看護ケアの展望を提案する。</p> <p>(オムニバス・共同(一部)/全15回) (④ 岡本紀子/1回、⑤ 赤澤千春/2回、⑥ 竹村淳子/2回) システムティックレビューの意義と方法論を各専門分野の視点から教授する。</p> <p>(④ 岡本紀子、⑤ 赤澤千春、⑥ 竹村淳子、⑦ 古株ひろみ、⑧ 糸島陽子、⑨ 千葉陽子、⑩ 荒川千登世、⑪ 板谷裕美、⑫ 川端智子/10回) ・セミナーA・Bのいずれかを選択し、システムティックレビューを行う。 ・最後に、学生によるシステムティックレビューの知見をもとにした臨床におけるエビデンスの活用と課題および看護ケアの展望について <セミナーA:⑥ 竹村淳子、⑦ 古株ひろみ、⑨ 千葉陽子、⑪ 板谷裕美、⑫ 川端智子> (共同) 女性および子どもとその家族、集団を対象とした看護ケアのシステムティックレビューを教授する。</p> <p><セミナーB:④ 岡本紀子、⑤ 赤澤千春、⑧ 糸島陽子、⑩ 荒川千登世> (共同) 成人および高齢者とその家族、集団を対象とした看護ケアのシステムティックレビューを教授する。</p>	オムニバス・共同 (一部)

看護実践科学研究部門

<p>特別研究 I</p>	<p>(概要)</p> <p>看護学研究特論 I・II、基盤看護学特論・演習または看護実践科学特論・演習での学修を活用して、自己の研究課題に関連する国内外の先行研究をクリティークすることで研究課題の焦点化を行い、研究計画書を作成する。</p> <p>(1 伊丹君和)</p> <p>看護職の腰痛予防教育、看護の教育的機能に関する研究課題、さらに看護技術のエビデンスの検証および学習支援システムの構築に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(2 新井香奈子)</p> <p>住み慣れた地域での自分らしい生活を支える予防的視点からの看護ケア方法および地域包括ケアと地域・在宅看護および看護職の役割に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(① 本田可奈子)</p> <p>看護マネジメントとくに看護職のキャリア発達または専門職教育に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(② 牧野 耕次)</p> <p>精神科看護における患者－看護師関係におけるインボルブメントに関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(③ 藤井 誠)</p> <p>看護実践者の実践や暗黙知を数理的に定量化し評価する研究、数理保健学・看護研究のための臨床疫学に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(④ 岡本紀子)</p> <p>高齢者の肺炎予防のためのセルフケア、ケア提供者の感染予防の意識に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑤ 赤澤千春)</p> <p>クリティカル看護ケアにおけるリンパ浮腫看護、移植・再生医療における看護ケアに関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑥ 竹村淳子)</p> <p>重複障がいがある子どもと家族の支援に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑦ 古株ひろみ)</p> <p>障がいがある子どもの支援、プレパレーションなど子どもの権利(擁護)に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑧ 糸島陽子)</p> <p>高齢者・終末期の意思決定支援、エンドオブライフケアに関する研究課題に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑨ 千葉陽子)</p> <p>女性の健康とバイオマーカーに関する研究、助産ケアの向上に関する研究に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(12 米田照美)</p> <p>視線計測による看護師・看護学生の危険認知に関する観察眼の解明、看護師・看護学生の医療安全教育の設計と評価に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑩ 荒川千登世)</p> <p>急性期・回復期看護におけるリンパ浮腫に対するセルフケアに関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑪ 板谷裕美)</p> <p>授乳女性の母乳育児支援、助産師のキャリア発達に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p> <p>(⑫ 川端智子)</p> <p>未成年の喫煙防止、プレパレーション、子どもの権利擁護に関する研究課題について国内外の先行研究を検討し、研究課題の焦点化と研究計画書の作成に向けて指導する。</p>	
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<p>特別研究Ⅱ</p>	<p>(概要) 特別研究Ⅰを踏まえ、自己の研究計画に沿ってデータ収集、データ分析等の研究活動を遂行する。</p> <p>(1 伊丹君和) 看護職の腰痛予防教育、看護の教育的機能に関する研究課題、さらに看護技術のエビデンスの検証および学習支援システムの構築に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(2 新井香奈子) 住み慣れた地域での自分らしい生活を支える予防的視点からの看護ケア方法および地域包括ケアと地域・在宅看護および看護職の役割に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(① 本田可奈子) 看護マネジメントとくに看護職のキャリア発達または専門職教育に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(② 牧野 耕次) 精神科看護における患者－看護師関係におけるインボルブメントに関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(③ 藤井 誠) 看護実践者の実践や暗黙知を数理的に定量化し評価する研究、数理保健学・看護研究のための臨床疫学に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(④ 岡本紀子) 高齢者の肺炎予防のためのセルフケア、ケア提供者の感染予防の意識に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑤ 赤澤千春) クリティカル看護ケアにおけるリンパ浮腫看護、移植・再生医療における看護ケアに関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑥ 竹村淳子) 重複障がいがある子どもと家族の支援に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑦ 古株ひろみ) 障がいがある子どもの支援、プレパレーションなど子どもの権利(擁護)に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑧ 糸島陽子) 高齢者・終末期の意思決定支援、エンドオブライフケアに関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑨ 千葉陽子) 女性の健康とバイオマーカーに関する研究、助産ケアの向上に関する研究に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(12 米田照美) 視線計測による看護師・看護学生の危険認知に関する観察眼の解明、看護師・看護学生の医療安全教育の設計と評価に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑩ 荒川千登世) 急性期・回復期看護におけるリンパ浮腫に対するセルフケアに関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑪ 板谷裕美) 授乳女性の母乳育児支援、助産師のキャリア発達に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>(⑫ 川端智子) 未成年の喫煙防止、プレパレーション、子どもの権利擁護に関する研究課題に対して、研究計画に沿って自立的に取り組むことができるよう指導する。</p>	
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

特別研究Ⅲ		<p>(概要) 特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自己の研究計画に沿って、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(1 伊丹君和) 看護職の腰痛予防教育、看護の教育的機能に関する研究課題、さらに看護技術のエビデンスの検証および学習支援システムの構築に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(2 新井香奈子) 住み慣れた地域での自分らしい生活を支える予防的視点からの看護ケア方法および地域包括ケアと地域・在宅看護および看護職の役割に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(① 本田可奈子) 看護マネジメントとくに看護職のキャリア発達または専門職教育に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(② 牧野 耕次) 精神科看護における患者－看護師関係におけるインボルブメントに関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(③ 藤井 誠) 看護実践者の実践や暗黙知を数理的に定量化し評価する研究、数理保健学・看護研究のための臨床疫学に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(④ 岡本紀子) 高齢者の肺炎予防のためのセルフケア、ケア提供者の感染予防の意識に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑤ 赤澤千春) クリティカル看護ケアにおけるリンパ浮腫看護、移植・再生医療における看護ケアに関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑥ 竹村淳子) 重複障がいがある子どもと家族の支援に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑦ 古株ひろみ) 障がいがある子どもの支援、プレパレーションなど子どもの権利(擁護)に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑧ 糸島陽子) 高齢者・終末期の意思決定支援、エンドオブライフケアに関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑨ 千葉陽子) 女性の健康とバイオマーカーに関する研究、助産ケアの向上に関する研究に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(12 米田照美) 視線計測による看護師・看護学生の危険認知に関する観察眼の解明、看護師・看護学生の医療安全教育の設計と評価に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑩ 荒川千登世) 急性期・回復期看護におけるリンパ浮腫に対するセルフケアに関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑪ 板谷裕美) 授乳女性の母乳育児支援、助産師のキャリア発達に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p> <p>(⑫ 川端智子) 未成年の喫煙防止、プレパレーション、子どもの権利擁護に関する研究成果について、一連の研究プロセスを通して博士論文の作成ができるよう指導する。</p>	
-------	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--